

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	西岡 隆文
論文担当者	主査 五味 文
	副査 松永 寿人
	副査 都築 建三
学位論文名	Effects of Screen Viewing Time on Sleep Duration and Bedtime in Children Aged 1 and 3 Years: Japan Environment and Children's Study (1歳と3歳の子供の睡眠時間と就寝時間に対するスクリーン視聴時間の影響)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>小児期におけるスクリーンタイム、すなわちテレビ/DVDやPED (portable electric device) 視聴の長時間化が社会問題になってきている。申請者らは、テレビ/DVDやPEDの使用時間が小児の睡眠時間、就寝時間に及ぼす影響を、エコチル調査の参加者のデータから解析を行った。</p> <p>エコチル調査の対象である2011-2014年に登録された参加者のうち、質問票の回答が有効であった74,525名を対象に、テレビ/DVD視聴時間、PED使用時間と睡眠時間の短縮、就寝時間の遅延の関連について、ロジスティック回帰分析により共変量を調整して解析した。さらに1歳時のテレビ等の視聴・睡眠習慣が3歳時の習慣に及ぼす影響についても縦断的な解析を行った。</p> <p>その結果、テレビ/DVDの視聴時間と睡眠時間の短縮についての関連は見られなかったが、PEDは視聴時間が増えるにつれ、睡眠時間短縮のリスクが増える傾向にあった。就寝時間遅延については、テレビ/DVD、PEDともに視聴時間が増えるにつれ、遅延のリスクが増える傾向にあった。1歳時の習慣がその後に及ぼす影響については、1歳で睡眠時間が短い、あるいは就寝時間の遅延があった児は、3歳時に睡眠時間短縮のリスクが高く、1歳時にテレビ/DVDやPEDの視聴時間が長い、あるいは就寝時間の遅い児は、3歳時に就寝時間遅延のリスクが高かった。</p> <p>今回の研究からテレビやDVDと比べてPEDの長時間の視聴はより小児の睡眠時間の短縮と関連することが明らかになり、また1歳時のスクリーンタイムや睡眠に関する習慣は3歳時の習慣に影響していたことがわかった。今後の小児の発達、成長への影響をみるうえでも大変重要な知見であり、学位論文に値すると判断した。</p>	